地方大学生と都内大学生の情報格差について

「地方の大学生は都内の大学生と比べて情報格差があって、就活において不利である」と言う論理について、地理学と心理学と学歴、都内と地方の大学に通う複数の友人のお話を元に、私なりの持論を述べたいと思います。

まず地理学の観点から論理を述べますと、都内で就職を目指す地方の大学生からしたら、企業説明会やインターンなど、都内の企業が主催するイベントに参加できる確率が都内の大学生よりも低くなると言うのは、金銭的であったり時間的な理由、学業との兼ね合いと言う理由から起こる事でしょう。

都内の大学に通う友人曰く、インターネットでは手に入る事が無い、企業イベントに参加するからこそ手に入る価値のある一次情報、就活生や企業の人間との人脈形成をした上で手に入るさらなる情報と言うのはあるようで、そのような機会が増える、地理的に有利な都内の大学生と地方の大学生とでは情報格差が多少なりと出てくると言っても過言ではないでしょう。

次に心理学。地方の大学生よりも都内の大学生の方が企業と関わったりする機会が多い分、周りの友人知人が早かれ遅かれ就活に動いているのを見て、群集心理が強く働くと考えます。「周りもやってるから」と言う事で周りに流されたり、危機感を感じるからこそ、情報を手に入れるために当人が動く機会が増えるでしょう。地方の大学生が「就活のスタートが遅い、のんびりしている」と言われるのも、周りの動きが活発でないからこそ、遅くなっているのではないでしょうか？

そして最後に学歴。早稲田大学に通う友人曰く、高学歴の大学の方が企業から大学にアプローチが来たり、OB等と関わる確率が高くなる。その機会がゆえ、価値のある情報が手に入る確率も上がる。と言う事は、地方の大学生だとしても、地方の高学歴大学の学生であれば、そこまで情報格差を感じる事が無くなると言う論理ですね。

結論として、情報格差を嘆く地方の大学生と言うのは、そもそも学歴が低く、だからこそ企業からアプローチが来る確率も、インターン等イベントに参加できる確率も低く、さらには地理的な心理学的な理由も合わさり、一次二次を合わせて相当な情報格差が出ているでしょう。

平等主義と資本主義。平均より下の人間は平等を求め、平均よりも上の人間は自由を求める。地方の低学歴の大学生で多方面で不利ならば、その分、他の分野で努力するしかない。例えば、誰よりも企業に関して詳しくなる事であったり、企業が欲しがるようなスキル能力を身に付ける事や、経験をする事など。

劣る部分は努力でカバーするしかないと言う事で、皆様は地方と都内の情報格差についてどんな意見をお持ちでしょうか？